

# 日機装通信

第83期第2四半期

2023年1月1日～6月30日



創業当初のミルトン・ロイポンプ

日機装の前身である「特殊ポンプ工業」創業時に輸入販売していたミルトン・ロイ社製のポンプ。ミルトン・ロイ社と技術提携を行い、ポンプの国産化をいち早くスタートしたことから、「技術の日機装」の歴史がスタートしました。

我々にしかできない技術を生み出し、  
今後も社会の発展に貢献してまいります。

代表取締役社長 甲斐 敏彦



メディカル技術センター

## 当第2四半期の業績について

インダストリアル事業は中長期的なエネルギー確保、低・脱炭素化の流れが加速し、設備投資需要が拡大しています。天然ガス価格の高止まりによってLNG関連市場が活発で、また国内ポンプ事業の主力市場である化学産業向けの製品の受注も増加しています。航空機市場は、小型機（単通路機）の需要が活況で、中型機の需要も徐々に回復方向にあるものの、世界的なサプライチェーンの再構築に時間を要しており、完成機の生産回復に遅れが見られます。メディカル事業の主要市場である血液透析市場は、国内需要は堅調に推移、海外は市場拡大の著しい中国が引き続き好調に推移しました。

この結果、当第2四半期の業績は、受注高は前期比13%減の985億円、売上収益は微減となる872億円、営業利益

26百万円、税引前四半期利益は、主に円安による為替差益の計上により前期比67%増の54億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は前期比102%増の38億円となりました。

### 2023年12月期第2四半期連結業績

(百万円)

	FY2022 2Q実績	FY2023 2Q実績	前期比	
			増減額	増減率
受注高	114,039	98,510	△15,529	△13.6%
売上収益	87,554	87,219	△334	△0.4%
営業利益	△286	26	+313	-
利益率	△0.3%	0.0%		
税引前利益	3,248	5,444	+2,196	+67.6%
利益率	3.7%	6.2%		
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	1,911	3,873	+1,961	+102.6%
利益率	2.2%	4.4%		
期中平均為替レート 対米ドル(円)	123.14	135.00	+11.86	-
対ユーロ(円)	134.39	145.93	+11.54	-

なお、2022年8月に全株式を売却したLEWA社、Geveke社の業績を除いたベースで比較すると、当第2四半期の受注高、売上収益、営業利益は対前期比で大きく増加しています。

## 2023年12月期の見通しについて

今回、足元の事業動向を踏まえ、売上収益は前回予想から100億円増の1,900億円に修正し、営業利益は40億円の目標のまま据え置きとします。税引前利益および当期利益は、円安影響を踏まえ上方修正しています。

足元では、主力3事業の事業環境に好転の兆しが見え始めており、ポンプ・システム事業や血液透析事業は、主に海外市場の拡大により受注高・売上収益の増加を見込んでいます。航空宇宙事業ではサプライチェーンの再構築に時間を要することから、今しばらくは不透明な状況が継続するものの、航空機需要は着実な回復基調にあることから、2024年度以降の本格的な業績回復を見込んでいます。

収益面では、ポンプ・システム事業では原材料・部品価格の高騰に加え、急激な受注増に対応するための生産コストの増加など収益性向上に向けては道半ばにありますが、メディカル事業では中国を中心とした装置販売の増加や販売価格の適正化の取組みに加え、固定費低減による収益性の改善を見込んでいます。

### 2023年12月期通期業績予想の修正

(億円)

	FY2023実績 2Q	FY2023 前回業績予想 通期	FY2023 業績予想 通期	前环比 増減額	2Q進捗率
売上収益	872	1,800	1,900	+100	+45.9%
営業利益	0	40	40	-	-
税引前利益	54	38	75	+37	+72.6%
親会社の所有者 に帰属する 当期利益	38	29	51	+22	+75.9%

## 中長期的な展望

当社は、この2023年から中期経営計画「Nikkiso 2025 フェーズ2」をスタートしており、これからの3年間を持続的な成長に向けた経営基盤を固めていく重要な期間と位置づけています。

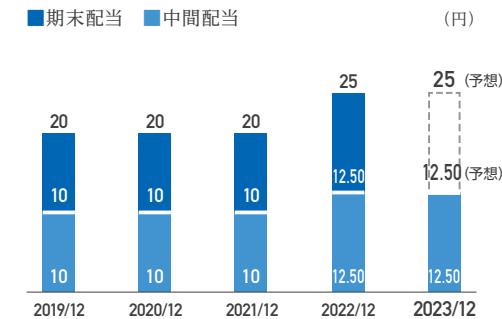
当社は、創業の時期から社会の変化とお客様のニーズの「本質」を先駆けて捉え、既存技術を磨き、新たな技術を生み出し、社会発展に必要な製品・サービスを届け、発展してきた企業です。過去、各事業の進むべき方向性を模索していた時期もありましたが、現在は、インダストリアル、航空宇宙、メディカルの各事業において、我々に求められている役割がより明確になってきたと考えています。世界でも数少ない専門的な分野の技術メーカーとして、アンモニア・水素など我々が存在感を示すことができる分野で、我々にしかできない技術を生み出し、今後も社会の発展に貢献してまいります。

### 「株主還元について」

当社は、継続的かつ安定的な利益還元は当社の資本政策の重要な柱であるとの基本認識のもと、業績、経営環境などを総合的に勘案した利益還元を行なっていくことを基本方針としています。

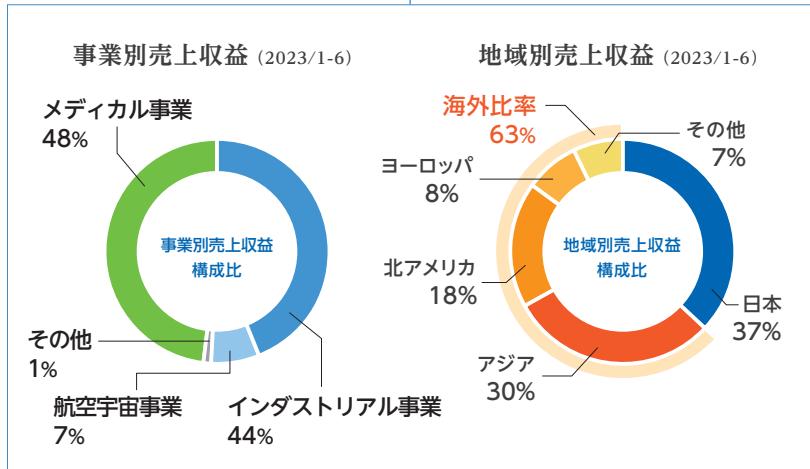
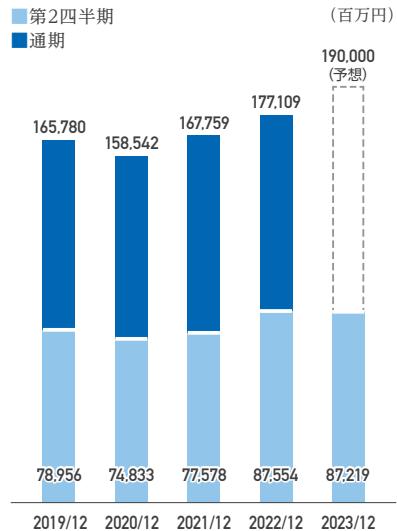
2023年12月期中間配当は、2023年2月14日発表のとおり1株当たり12円50銭とさせていただきます。期末配当も1株当たり12円50銭、年間配当総額25円とさせていただきます。

### 配当実績

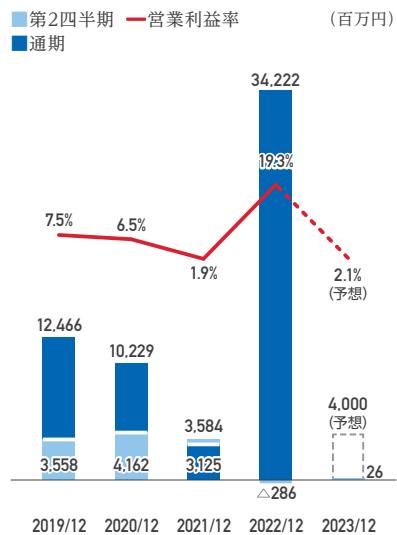


# 業績ハイライト

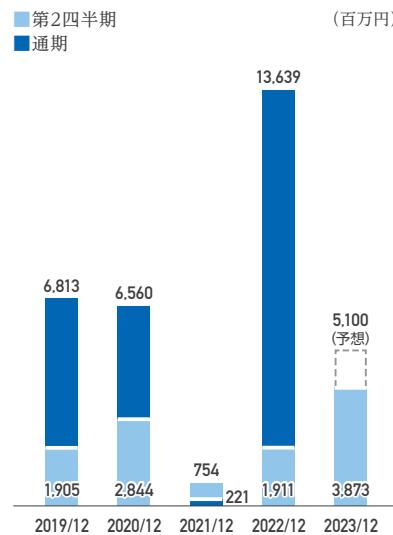
## 売上収益



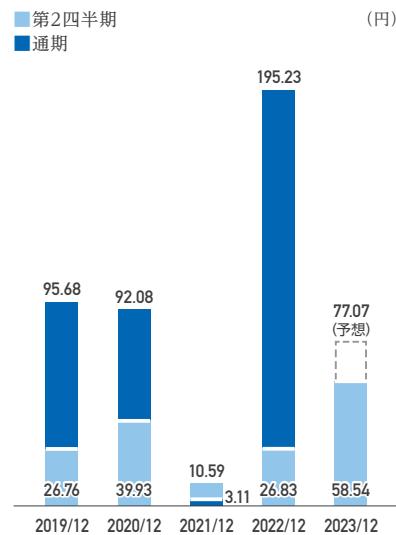
## 営業利益



## 親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益



## 基本的1株当たり四半期(当期)利益



# 事業概況

## 工業部門

受注高	586億円 (前期比22.2%減)	売上収益	454億円 (前期比11.4%減)	営業利益	△9億円
-----	----------------------	------	----------------------	------	------

### インダストリアル事業

受注高	519億円 (前期比25.0%減)	売上収益	386億円 (前期比14.4%減)	営業利益	5億円 (前期比77.9%減)
-----	----------------------	------	----------------------	------	--------------------



産業用ポンプ・システム、電子部品製造関連装置等の製造・販売・メンテナンスを行なっています。

■ LNG・水素関連市場は、米国、アジア、欧州など海外を中心にエネルギー確保や脱炭素化による投資が継続。  
 ■ CE&IGグループは、受注高は前年同期から大幅に増加。LNG燃料船向け装置などで、売上は大きく伸長。収益面では、人件費の上昇、体制整備費用、部材の高騰などでコストが増加するも、増収効果で増益。



### 航空宇宙事業

受注高	62億円 (前期比21.9%増)	売上収益	63億円 (前期比24.1%増)	営業利益	△7億円
-----	---------------------	------	---------------------	------	------



航空機の逆噴射装置用関連部品を中心に炭素繊維強化プラスチック製品の製造・販売を行なっています。

■ 小型航空機の需要が活況の一方、航空機メーカーはサプライチェーンの再構築等で、増産に想定より時間を要す。  
 ■ 主力のカスケード、ベトナム・ハノイ工場での主翼部品等の出荷は回復基調にあるも、収益面では原材料価格高騰、仕掛品増加により前年同期並み。2024年以降の本格的な業績回復を見込む。



## 医療部門

受注高	400億円 (前期比2.9%増)	売上収益	418億円 (前期比14.9%増)	営業利益	36億円
-----	---------------------	------	----------------------	------	------

### メディカル事業



血液透析に関連した製品や、人工臓器装置などの医療機器の製造・販売・メンテナンスを行なっています。

■ 血液透析装置販売は前年より増加。国内市場は原材料・部品の調達問題が改善に向かったことから、生産・出荷が増加。海外は中国、アジアが牽引。  
 ■ 部材の高騰影響は継続も、装置および消耗品の販売増と販売価格の適正化による増収などで大幅増益。  
 ■ 一過性費用（前期におけるヘルスケア事業の棚卸評価損計上約15億円等）が解消。



## 創薬研究用ヒト腎細胞「3D-RPTEC®」を開発、7月販売開始

当社は日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社および金沢大学との共同研究により、世界で初めて腎機能を適切に反映した創薬研究用ヒト腎細胞「3D-RPTEC®（スリーディーアールピーテック）」の開発に成功し、2023年7月より販売を開始しました。

今回開発した技術により、創薬研究において主に動物実験で行っていた薬物の評価を細胞実験に代替できること、また創薬プロセスの効率化に貢献することが期待されます。この研究の成果は、科学誌『Drug Metabolism and Disposition』にも掲載されました。

今後、腎臓評価を予測するツールとして3D-RPTEC®を多くの研究現場で使っていただくことで、ヒト腎細胞を用いた細胞実験の標準化を目指しています。

※「3D-RPTEC」は日機装株式会社の登録商標です。



3D-RPTEC®

## JEC Composites Innovation Awards 2023 ファイナリストに選出

航空宇宙事業では、従来の製造方法より製造にかかる時間や、製造の過程で出る廃棄物を削減でき、より環境負荷の少ない熱可塑性炭素繊維複合材（CFRTP）による航空機部品の開発を進めています。

2023年3月には、複合材料の可能性を最大限に発揮した最先端かつ創造的なプロジェクトに授与される賞である「JEC Composites Innovation Awards 2023」のファイナリストに初選出され、当社の取り組みが評価されました。4月には毎年パリで開催される世界最大級の複合材展示会である「JEC World 2023」に初参加し、主催者であるJECの特設ブースや、開発パートナーのSOLVAY社、A&P Technology社それぞれのブースに出展することができ、世界中の多くの航空宇宙事業関係企業に当社の取り組みをアピールすることができました。

今後も持続可能な社会の実現に向けた製品・製造方法の開発を進めていきます。



JEC World 2023



「Bright」は、社会を根底から支える日機装の技術や製品、人々に光をあてて紹介するためのWebメディアとして、2022年7月にオープンしました。「ものづくり」「くらしを豊かに」「いのちの現場」「日機装の文化」の4つのカテゴリで最新の取り組みを紹介しています。

### くらしを豊かに



エネルギーインフラを支える仕事とは～  
LNG基地で働くサービスエンジニア～

### いのちの現場



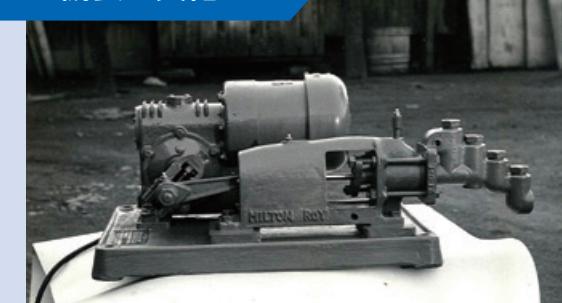
【透析治療のSDGs #2】治療法の選択肢  
—これからの持続可能な透析医療とは

### ものづくり



CFRTPで環境にやさしく、効率的に航空機用部品を  
造る | 航空機分野における脱炭素化への取り組み

### 日機装の文化



今年で創業70周年。日機装の歴史を振り返る  
【#1 創業ストーリー】

<https://bright.nikkiso.co.jp/>

スマートフォンはこちらから



## 会社概要

創業日 1953年(昭和28年)12月26日  
(登記上の設立日は1950年3月7日)  
資本金 6,544,339,191円  
従業員数 連結7,944名(単体2,040名)

## 役員一覧

代表取締役社長  
甲斐敏彦

取締役 執行役員  
木下良彦 山村優  
齋藤賢治 加藤孝一

取締役  
ピーター・ワグナー

社外取締役  
広瀬晴子 中久保満昭  
福田順子

常勤監査役  
網野久直 竹内基裕

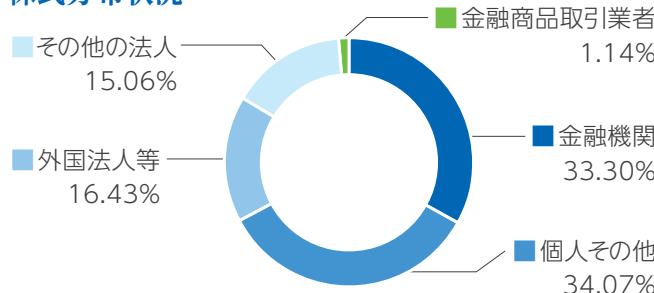
社外監査役  
小笠原直 仲谷栄一郎

執行役員  
中津留和夫 村上雅治  
泉幸慶 渡辺恭介  
中村干城 戸村健二  
横田直己

## 株式の状況

発行可能株式総数 249,500,000株  
発行済株式の総数 69,175,664株  
(うち自己株式2,992,356株)  
株主数 17,056名

## 株式分布状況



## 大株主一覧 (上位10社)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,521	9.85
日機装持株会	3,092	4.67
株式会社みずほ銀行	2,500	3.77
日機装従業員持株会	2,071	3.12
三井住友海上火災保険株式会社	1,966	2.97
富国生命保険相互会社	1,700	2.56
日本生命保険相互会社	1,650	2.49
株式会社三菱UFJ銀行	1,622	2.45
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,456	2.20
株式会社日本カストディ銀行(年金特金口)	1,189	1.79

※当社は、自己株式2,992,356株を保有していますが、上記大株主から除いています。  
※持株比率は自己株式を控除して計算しています。



株式・債権情報については、こちらをご覧ください。  
<https://www.nikkiso.co.jp/ir/stock/>